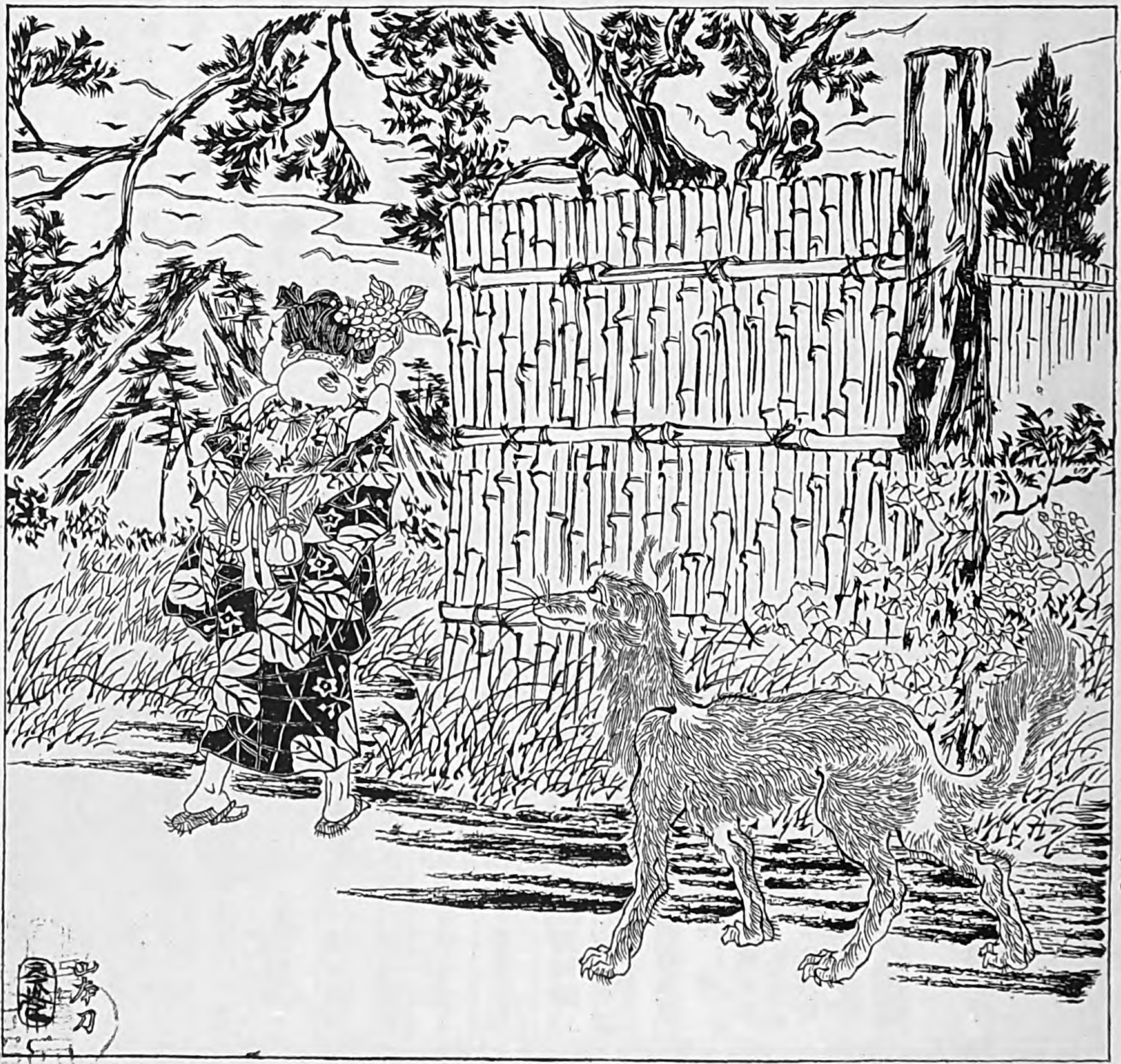
THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年六月五日　毎土曜日發兌　第貳拾五號

此の繪の說明ハ本紙中ニ在り



The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目壹拾番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十五號目次

●官報●論說○夫婦の關係（前号の續）●中外新報十一件●學藝叢談○カリー氏幼兒教育學○理學一斑●英語の栞（附羅馬字話し）○泰西箴諺の直譯●列女傳○小松原綱子の義烈（表書傳）○蘇小妹（前號の續）○上杉禪秀の夫人●和書講義○つれ〴〵草●稗史小說○西江月話（第七回）●女紅○裁縫○エッグフリップの製法○即座に葛饅頭を製る法○足の底を奇麗に洗流す法○髮の毛の拔けざる法○染めたる函を白函にする法●御伽草○庸醫○考へもの●古今雜話○箏○西洋女禮式一斑（前號の續き）○踏舞會の心得（前號の續き）○日本女禮のあらまし●群芳詞苑○閨秀新品詩歌數件

明治十九年六月五日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必す代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替分を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自廿一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自卅一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○文部省令第七號續き

第十三條　敎科用圖書撿定を願出るときハ第一號書式に據り一種の圖書に付願書二通該圖書二部およびその（著述、譯述、編纂）旨意書に第五條の手數料を付してこれを出すへし其（著述、譯述、編纂）旨意書ハ明瞭に該圖書の要項を記すべし○第十四條　第四條により追願するときハ第二號書式に據り前條の手續を經べし○第十五條　第七條および八條の場合に於て屆出をなすときハ免許證の番號日附および圖書名卷冊記號等を記すべし○第十六條　第九條により免許證の再渡を願出るときハ第三號書式に據り其理由を記してこれを出すへし○第十七條　免許證を得さるものハ出願本人よ於て第四號書式に據りその書物の見返しもしくハ圖面の見易きところに免許證を有する間の年限を印すべし○第十八條　第二條の免許證書式左の如し

（證書式略す）

文部省訓令第一號小學管易科敎則の要領は本紙に揭載致すべきのところ餘白なければ次號に讓る

○夫婦の關係　（前號續）

ショルマン氏のいへるにはブッシュ人の中には男女の間に結合の體裁なくたゞ双方の承諾せしのミに止るといへりキーティング氏バンクロフ氏等の說に據ればチッペウェイ人には婚姻の禮式といふごとなくエスキモー人アラワク人ヴェダー人および下カリフォルニヤ人等には婚姻といふ言語もなきほどなれば固より規矩りたる婚姻の禮式もあるべきやうなく恰も禽獸に任意の一番あると同じことなりと社會原論に引說せり夫より少し進んで婚姻法の行はるゝ社會と雖も得心づくなるの或ハ强迫に出るか唯男女共に生活をとんふに過ぎざるのみのゝる社會にありては婦人を强奪して俘囚となすことと一般の習慣なれバ婚姻とは取りも直さずこの奪掠を仕遂げたりといふに異ならず我が邦に於ても古昔はこの風ありしものと見え嘗て羅馬字雜誌よ人類學會の報告書を引て淡路の洲本にはかつぎと云ふことありて女の外出するを窺ひ大勢にて奪ひ取り擔ぎて夫の家に連れ行き后に至りその婦人の兩親へ人を以てその女を妻とせんことを云ひ納るゝの風習ありと云へり尙ほ巨細

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に調べたらんには其他にも同様なる風習の存せる所多かるべしと思はるゝなり外國の或る野蕃國には燈火を點し男女その傍に坐せるを以て婚姻の禮となしまたトダ人の中にハ新婦が一寸したる世帯向きの用事をなすを婚禮となしニユーギニヤ人の中にて嫁より婿に煙草若くハ胡椒の葉を與ふるを禮式となしナバジョー人の婚禮ハ食物を入れたる籠を中央にをき男女その所傍に對座しその籠の中の食物を分ち食ふを以て夫婦となりたるの徵とせるよしなりこれ蕃族中に行ハるゝのみならず歐洲に於ても古代の羅馬人中にハ菓子を分ち食せるの禮ありしといへりかゝる單純なる禮式ハ男女一所に生活せる時期の始めを示すに止るのみ

以上列擧するがごとく簡易無造作なる禮式を行ひたる婚姻ハその結合もまた甚はだ鞏固ならずチッペウヱィ人種にありてハ離縁をなすことも人を鞭うつよりも容易くして何時にても女を戸外に放逐するを以て離婚法とせりまたロール、カリフォルニヤ人ッピ人のごときハ幾人にても隨意に妻を娶りその中にて倦きたるものをバ何時にても戸外に捨つるの習慣なりと云ひタスマニヤ人中にて女房を取り換へざるものあるときハ非常に珍らしきこととなしカシヤ人ハ度々離縁をなすにより夫婦の結合ありとしも見えずと云ひマレイポリチシヤ人種のごとく少し進みたる人種にてもこれと異るところなくニユーゼーランド人の離縁法は女を戸外に突き出すのみに止りエリ人は男にても女にてもその一方に於て望むときは何時にても離縁をなしまたカシヤ人およびび古代のメキシコ人のごとく婦人に權力ある土俗にては女がその夫に倦きたるときは何時にてもその夫を戸外に放逐せりと云ふこの他に尙ほその例多かるべし

抑も〱文明諸國に於て婚姻法を重んずるは之れを重んずべきの理由あることにて右の如き蕃族にありては文明國に於て婚姻に懷く所の思想とては絕えてあるとなし然れども歐米文明國の婚姻法も元來かゝる野蠻の有樣より進化し來りたるものにして我が邦現時の有樣も未だ全くかゝる蠻俗を脫出せずとは云ふ可らざれども文明諸國の有樣と比ぶるときはその進度の及ばざることいまだ遠しと云ふべきなり余輩は婚姻法に就き論ずべきこと多かれどもその細論はこれを他日に讓り是れより尙は進みて男女の關係に於て如何なる土俗の國あるかを穿鑿し而して後ちに我が邦現在の有さまに論及せんと欲するなり

（未完）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○行啓　皇太后宮皇后宮には去る廿九日午前九時三十分の御出門にて高等師範學校へ行啓遊ばされ又皇太后宮には本月一日華族女學校へ行啓あらせられたり

○學習院授業時間　學習院の授業時間は去一日より午前八時より午後二時迄と改められし由

○電信修技學校　全校にては本月一日より各級生徒の定期試驗を始められたりと云ふ

○學生競技會　帝國大學幷第一高等中學校學生の催せし競技會は去る廿九日帝國大學の構内にて執行されしが當日は英公使プランケット氏を始め内外の紳士貴婦人等より種々の賞品を寄附されしとぞ

○學校生徒氣質鍛錬　(前號續)斯目的を達するには敎場内外一切の事業を以て氣質鍛錬の資に供し就中寄宿舍及體操に係るものを以て敎場外最重の事業として之に充つべきなり其之を資用するには生徒をして伍を組み隊を編み輪換分擔せしめ其間下に在ては上の命令に服從して順良の道を修め上に在ては下を統御して威重の實を固ふし及高級生にして下級生の下に立つ者をして其及ばさる所を親切に輔導し以て信愛の情を深くせしむるを要す前文の主旨に基き其校生徒氣質鍛錬に關する方法及條規を定むべし

又右訓令に依り同省學務局長より其の方法調成上參考として同校へ左の生徒編制法を送附せり　(以下次号)

○春期大試驗　築地明石町なる米國新敎々會女學校にては去月廿六七の兩日間春期大試驗を執行し父兄の傍聽をも許されたりと云ふ

○學力試驗及第人員　先頃文部省にて師範學校中學校敎員の學力試驗を執行されしが全委員より今度大臣へ上申されたる及第人員は都合百二十五名なりしと

○仙台通信　宮城縣下仙台よりの通信に去る二十日當地挹翠館に於て宮城婦人懇親會を開かれ其會主は松平縣令幷に本縣警部長の夫人にて中々の盛會なりし又當地にては米國宣敎師ホーエ氏いろ〱盡力して男子の英語學校を設立せし處今度また女學校をも設立するの見込にて近々本國より二名の女敎師を招聘する由誠に我々仙台人は結構の事共なりと見ゆ

○古典講習科生徒　帝國大學なる全科の生徒は改革後皆な一同に私費生とせられたるが缺員あるを以て本月下旬頃入科試

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驗を行はるゝ由

○鑛學士死す　福井縣の中野外志男氏は鑛學に精しく曩に工部大學校の助教授に任ぜられありしが此程腦卒中にて死去されしは實に惜むべきの至りにこそ

○俠妓　大坂堀江九三席の校書八重と云へるは年も二八の二九からぬ容色ありて其心ばへもまた優しき者なるが國事犯嫌疑にて目下堀川監獄分署に繋がれ居る吉村大三郎氏に花の朝月の夕數々招れて酒興を幇し事あるより仝氏が拘留前播州へ赴き路資に窮したる折は態々廿圓余の金を送り其拘留せらるゝや日々心にこめて放免せらるゝ樣神佛に祈り居るとは世にも俠氣ある校書にこそと該地よりの通報

◎學藝叢談

○カリー氏幼兒教育學

第二章　体育の理

〔第七節〕心體相關せる事　幼穉學校教育法の主義に於て初めに注意を要するところのものは(第一)生徒の健康を保護する事(第二)自然に備はりたる幼穉の幸福を增殖する事なり

身體を整造つる部分に於て心と最も密接の關係を有するものは腦にしてその關係の理は知るべからずと雖ども事實に就て證明することを得べきなり腦の組織の成長するに隨ひ益々良智の光輝を發達せるものなるがゆゑに腦の整調不完全なるときその光輝ははなはだ細微にして腦に傷を受け若しくは永遠の損じを生ずるときはその光輝暗くなるか或は消滅することあり實に腦は內外兩界の事物と心と相互ひに認識するの媒介をなすものと見えたりされば腦の作用と云ふは外界より印象を受けて意識を起し而てこれを心に顯はしまた他の一方においては各々その用に隨ひ身体の機關の活動を起さんが爲めに思想および心の欲するところを運ぶものなりとぞかく二樣に別るれども各々互ひに君と臣とを兼て相依り相助けて働をなし一方は他の一方の助けによりて以て統轄をなすところのものなりとす

〔第八節〕幼兒期の腦の有樣　幼兒期にありてはろの腦は充分の組織をなさんとしていまだ發育中なるがゆゑにこの期の終りに至りては未だ全く完全せざれども殆んど完全したるに近しとす腦の成長するは甚だ速かなるものにして身体の他の機關の成長するに比較ぶるときは成人の腦よりも遙かに大いなりされば幼兒期の間も腦の實質ははなはだ軟かにして物に觸

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て感じ易ければ損傷を受くることもまた甚だ容易なり故に自然の發育を害するところのものは何事によらずよく〳〵意を用ゐてこれを除かざる可らず

(以下次號)

○理學一班

〔第四節〕固有性および力の事　如何なる事物にても一種固有の結果を生ずるときはその結果を事物の「固有性」あるひは時として「力」と云ふ譬へば葱を嗅ぐときは一種固有の嗅氣あるを感ずるが故にその嗅氣は葱の固有性たるが如く鉛に觸るるときはその重さあるを感ずるが故に重さは鉛の固有性たるがごとく水の流れは水車を回轉せしむるがゆゑに水も車を回轉するの力ありと云ひ毒蛇は人を咬みて死に至らしむるが故に人を殺すの力ありと云ふがごときなりさればこの固有性と云ひ力といふはその固有性若しくは力を有する事物より生ずるところの結果なりと知るべし

〔第五節〕人爲物天然物の別及び天然の事　人感覺により種種樣々の事物を辨知するが中に就て家屋、家財、車、機械等のごときものを「人爲物」といふこれ等は皆人の「術」に由て形ちをなしたるもの即ち人の作りたるものなるがゆゑなり然れどもこの他に人の手を俟たずして現在するものの極めて多かるべし假ひ世界に人類なかるべしといへども依然として存在するもの即ち空、雲、日、月、星辰、海、陸、山、川、岡阜、溪谷、植物、動物等のごとき種類を「天然物」と云ふ而してこの全般を指して自然あるひは天然とは名づくるなり

(未完)

◎英語の栞　附羅馬字ばなし

○泰西箴諺の直譯

(甲)㈠若し㈡我々(が)㈢我々の㈣欲情(を)㈤服する、征伐する、壓制する、退治する、鎭撫する㈥無き㈦ならば㈧彼等(が)㈨我々を㈩㈤と同じ(で)⑪あらん、べし

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) If we subdue not our passions, they will
㈠㈦㈡ ㈤ ㈥ ㈢ ㈣ ㈧ ⑪
subdue us.
㈩ ㈨

〔意譯〕我より我が欲情を征せざれば
欲情我を征すべし

SIZA NO TEISETU.

Mukasi Siza to ieru mono sono tuma wo rien sesikaba, sono tomodati kitarite, naniyueni rien sesika to toikeru ni, Siza kotaete: "ware wa tuneni nyōbō no tameni teisetu wo mamoran to omoedomo, nyōbō ga oritewa teisetu wo mamoru koto dekizareba, rien site hitorito nari waga teisetu wo arawasan to omou ga yue nari," to iisi to nan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○小松原綱子の義烈〔表書傳〕

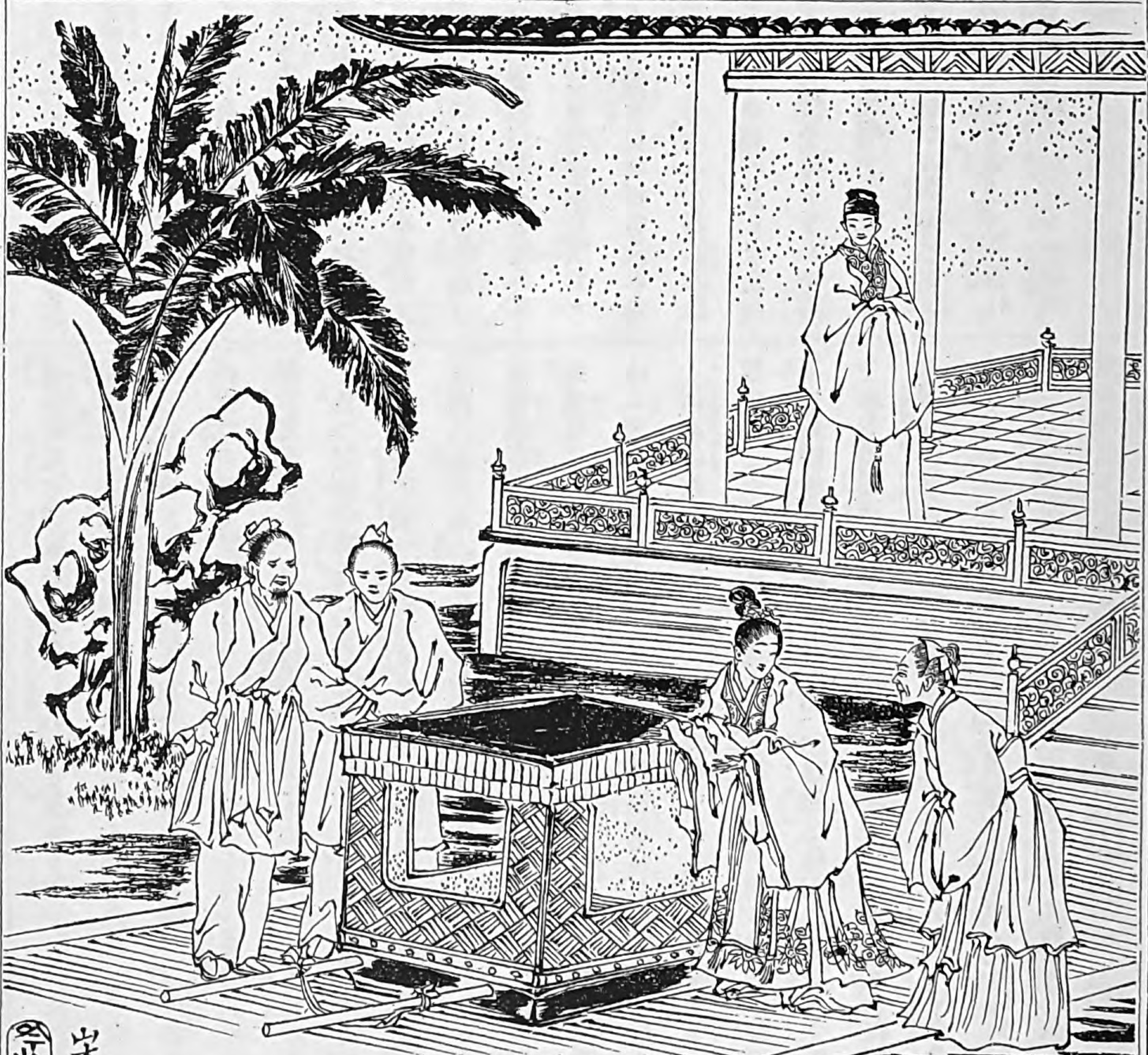
身ハ貧しき家ニ生れて他の傅婢となり教育もなき少女ながら義烈たぐひなく若狹の綱子と呼ハれて今の世までも聞く人をして坐ろに感涙を催ふさしむる小松原綱子と云へるハ若狹の國三方郡西津邑なる角左衞門の女ニして家の貧しきか爲め仝郡刀禰茂太夫が家に仕へて傅婢となり平生能く其の主の稚兒を愛護せしかば主人も綱子〳〵と呼びて宛ら我が子の如くに寵しみしが明和六年水無月の十一日綱子ハ例の如く稚兒を背に負ふて門の外に遊び居りしが山里の事なれば晝もなほ凄しくして時ありてハ野猪狼の類出來りて餌を索むるあり此の日も病狼ありて突然走り來り綱子が背後より飛びかゝりて負ハれたる子を咬んとせしかば綱子ハ怖しさ云ハん方なけれど斯ゝるときとて背の子を忘れす遽かに思ひつきて己れの衣物の裾を翻へし頭を蔽ふばかりに高く被りて子を匿しながら臀を露ハして俯伏せしに狼ハやにハに其の臀を嚙み牙を休めて再ひまた嚙まんとする折近隣の甲乙聲を聞付て萃り來りければ流石狂獰の狼も之れに恐れて亡去りたるより綱子を戸板に載せて其が家に送らんとせり時ニ綱子ハ人々を顧みつゝ主人の稚兒ハ背におハすかどてにも怪俄ハなされすやと討ね其怪俄あらざりし荅を聞くと齊しくいと悅ばしき面色して息絶えたるに皆々舌を卷きて感心せざるハなく主人夫婦も却つて我が子の死せすして此の烈女を殺したるを歎くに引かへ綱子の母ハ心中さこそ悲しかるべきも主兒の過ちなかりしを慶びて聊か我子の死を悼むの色を見せざりしとなん吁此女にして此の母ありいつれも世の龜鑑として學ぶべきものなれハ藩主酒井氏ハ爲めに一碑を西德寺に建てゝ忠烈綱女之墓と題しまた其の親をも召して田租を免せられたり綱子享年十四花ならば猶ほ蕾の身を以て能く此義烈の行ひあり其名千載の下に傳ふるニ至る亦宜なりかし

○蘇小妹〔前號續〕

從來大家の婦人が廟に詣でゝ燒香するハ早朝か但しハ夜の間にして早朝ハ人未だ來ぬを夜間ハ人巳に散すれば此日小妹も早朝ニ詣でたるに早くも一個の道人の來るありて拜殿の左廊にてはたと行遇ひければこれを避けんとするニ道人忽ち問を發して小姐有福有壽願發慈悲と云ふ小妹其聲ニ應じて道人何德何能敢求布施と荅ふれば道人ハまた願小姐身如樂樹百病不生

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

と問ふ小妹ハ避走りながらに隨道人口吐蓮華半文無捨と答ふを聞きて道人又々小娘子一天歡喜如何撤手寶山と問ひ小妹ハ風道人恁地貪痴那得隨身金穴と答へつゝ轎兒に打乗れば道人ハ風道人得對小娘子万千之幸と獨語て身を反す折小妹に跟隨せし老婆ハこれを聞付ていといぶかしく思ひたるよ廊下の方より一人の垂髫童子走出て道人に打對ひ相公こなたよ來りて衣を更め玉へと云ハれて道人内の方に這入たれば老婆ハ走來て悄と童子の肩を捻り聲を低めて那の相公ハこれ誰人よておハすぞと聞かれて童子ハ何氣なく高郵の秦少游と申す相公なりと敎つれば老婆ハ一禮して立回り轎兒の跟隨して出往きたりこれ秦少游が小妹の姿貌ハ美



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ならねど其才調は如何ならんと先づ試みたるにておりけるなりされば老婆は家に歸り那の道人こそ秦少游の假に粧ひ來りし由小妹にも告げたれば小妹はもとより夫の人こそ將未我か良人とし屯冊くの人たりと心に決めし事なれば老婆を制してこの事を努人にな語りぞと云付たり又少游の方にては此日飽で小妹を見つるに初想ひしよりは容貌も左まで醜からざるが上に應答流るゝか如く其才己れも及ばぬ程なれば今は自ら往きて嫁に迎んとを云入れし處老泉も早速承知しければ然らば急ぎ婚禮の事を準備せんと云ふに小妹は選試の期近きにあればば其試に應せられし上とて肯入れず只得三月の初三日禮部大試の期を待ち一擧名を成し制科に中りし後再びたづね往きて老泉に見え約束の如く日を定めて結婚せんと云入たれば老泉は此事を小妹にも心得させ笑つて云へるやうは何日とて日を定るにも及はす善は急げと云へるともあれば今晩こゝにて其式を執行ふべし納幣も要するに及ばずと東坡學士も傍よりこれを賛成なしければ遂に其夜双々堂を拜し百年の姻眷を成就したり然るに其夜は月明晝の如く少游は宴を退りて閨房に進まんとすれば房の扃は緊く閉ちて庭の面には小かなる一脚の卓兒を擺べ其上に紙硯封狀を安き又外に盞兒三個一は玉一は

銀一は陶の盞なるを青衣一人守り居れり依てこれに打對ひ小姐に傳へよ新郎の到しに何故房の戶を開かれぬかと青衣は小姐の命を奉てこゝに在り相公來玉ひなば三個の題目あればこれを式の如く試さふれし上房に進ませられよと申すべしとの事なる旨答へられて少游は訝しもこれしきの事何のあらんと先つ三個の盞兒は何の意見なるやを問へば青衣は云ふ玉盞は酒を盛的銀は茶陶は水なり三題俱に試中られなば此玉盞にて酒三盃めし上られし後閨房に進まれよ二題中りて一題中らずば銀盞にて茶を飲み明晩更に外の題を試みられし上閨房に進まれよ又一題中りて二題中らぬ時は罰としてれを陶盞に盛りて之を飲み廂外にて三個月間讀書されし後閨房に進まれよと云ふの意なりと少游は微に冷笑てこれ是れ容易なり我は三百の題をも懼るゝ者に非すと先第一封を拔き見れば詩四句を寫す銅鐵投洪冶。螻蟻上粉牆。陰陽無二義。天地我中央。少游思やふこの題目は別人ならば考つかざるべしこれ假に我が道人に扮ち岳廟にて化緣せしを小妹化緣道人と云ふ四字を含て我を嘲けるなり好し一詩を寫んと月下に筆を執て化工何意把春催。緣到名園花自開。道是東風原有主。人々不敢上花臺青衣は其詩を受て窓障より閨房中へ入高く叫て新郎第一場を完せら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れたりと云ふ小妹ハ手に執て打見ハ毎句の上に化緣道人の四字あり徴々打笑ひ居る中少游ハ又第二封を披くに左の詩あり

强爺勝祖有施爲。鑿壁偸光夜讀書。縫線路中常憶母。老翁終日倚門閭

少游一見し畢りて聊か沈思を須ゐず第一句ハ是れ孫權第二句ハ是れ孔明三句ハこれ子思四句ハ太公望なりと注釋せしかば青衣ハまた窓より中に塞進たり第三題に至りてハ對句を求むるにありて閉門推出窓前月と書たり少游ハ五六才の時にハ能く對句を作りて如何なる題も難しとせざりしに久しく中絶してありければ左思右量すれども其對を得ず夜もはやいたく深けて樵樓の大皷三點を打ちたれば益す慌て惑ひにけるを東坡ハ此時まで寢もやらず少游か庭にあるを窃かに見つゝありしが少游の困む狀を見て我れ其圍を解かずてハ誰か撮合とあらんと好對を與んため急切に思へども中々出來ず其中庭中に花缸一隻滿々淸水を貯へあるを認め咳嗽一聲して缸に磚片を投げ入れたれば水激せられて躍起る幾點少游の面上に迸しりしかば水中天光月影紛々として乱れしにぞ少游もこれに忽ち曉悟る處ありて遂に投石冲開水底天と對し難なく房中に進むを得てこれより夫妻和美夫婦唱和の詩もいと多く少游ハ後に才名を以て徵れて翰林學士となり小妹も宣仁太后より其才を稱せられて毎に召出され宮中にて題詠せしかば其名盛京師中知らさる者なかりしも天これに久しく年を假さゞ少游に先ちて死亡りしかば少游もいたく力を落し終身繼妻を娶らざりしと云ふ詩あり以て證とぞ

文章自古說三蘇。小妹聰明勝丈夫。三難新郞眞異事。一門秀氣世間無

○上杉禪秀の夫人

上杉禪秀の夫人ハ武田信滿の女にして左衛門夫人と稱しけるが一年逃れて甲斐にありける時禪秀の死たる訃を得られしかバ家を忍び出で〻藤戸の川に到り護身刀をもて物の美事に腹を屠り左の絕命の歌を詠して河水に身を沈め底の藻屑と消られしハあハれいさましき死樣にてぞありけり

さなきだに五つのさハりありと聞く
親さえむくふつみいかにせむ

○和書講義

つれ〴〵草

橘道守述

第十四段第一節

和歌こそなほをかしき物なれ。あやしのしづ山

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

賤のしわざも。いひいづればおもしろく。おそろしき猪のしゝも。ふするの床といへば。やさしくなりぬ。

〔全旨〕此一節は。前段の文選。白氏文集。老子。莊子の書を。友とする心をうけて。和歌の德の。一段それらの書にまさりて。面白き事をいへり。

〔語釋〕をかしき物なれ　面白き物なりとの意也。をかしの注。第二十二號にあり見合すべし。○あやしのしづ山賤都人の目に。其しわざをあやしと思ふ。田夫。樵夫也。○ゐのしゝ　猪なり○ふするのとこ　臥猪の床也。後拾遺集に「かるもかきふすゐのとこもいをやすみさこそねられめかゝらずもがな」といへり。さて獸の中に。猪ばかりは。宿所をするものなりといへり。多く茅葦の類を。とりあつめ着て。霜雪の防ぎもなせり。鹿などは。このことなしといへり。

〔講解〕和歌は。取わけ面しろき物なり。それもゆゑに。常にはいやしむべき。田夫樵夫の。田かへし。草きり。木こり。炭やくしわざも。歌によみ出れば。面白くきこえ。又おそるべき猪も。臥猪の床といふ時は。やさしくなるも。皆和歌の德なりとの意也。

第十四段第二節

此頃の歌は。一ふしをかしく。いひかなへたりと見ゆるはあれど。ふるき歌どものやうに。いかにぞや。詞の外にあはれに。けしきおぼゆるはなし。

〔全旨〕第十三段に。此國の博士どものかけるも。古へのはあはれなる事おほかりと。いへるをうけて。歌もその如く。古へのは。今にまさりて。よきをいへるなり。

〔語釋〕此頃の歌　兼好時代の歌なり。此時代には。頓阿。玄川其外。武士にも名人多し。○一ふし可笑く　一段面白く○言葉の外に云々　餘情とて。をかしき事。悲き事の。一首の言葉の外に籠れる也。扨此條に附ては。種々云べき事有ど。余が祖父守部。近世の和歌者流の歌は。多くは狂言綺語のあだことなるを。痛嘆の餘り。短歌撰格の著有て既に。上梓したれば。それに讓りていはず詠歌に心ならん人は。一讀して諸弊を。矯正し給へ。

〔講解〕此頃の歌は。一段おもしろく。題意にいひかなへたりと見るはあれど。何如なる故にか。古歌のやうに。餘情ありて。たけたかしとおぼゆる歌は。なしとの意なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎稗史小説

○西江月話　第七回

去程に瑞虹ハ朱源の妾となりて其の房中に到るや燈燭照り輝きてこゝに酒席を設け朱源ハ其の燈下に坐りて待ち居りしが今瑞虹の入來るを見るに其の貌前に見しよりハいやまして美麗なれバ欣び斜ならず先づ聲を掛けてこゝに坐れよと云ふに瑞虹ハいと羞澁に會釋して答もなさで坐下ければ朱源ハ小廝に命して酒を斟ましめ瑞虹に薦めたれどもまた口をも開かず禮をもせざれば朱源も必竟怕羞しくて斯くハあるらんと思ひ微笑て已れのミ一盃を傾け小娘子に我れおん身と已に夫婦となりしからハ何の遠慮のあるべきぞ少しく飲みても宜からん我れこゝに居て飲み乾すを待ち居るぞよと云ひけれど瑞虹ハ只た頭を低るゝのミにて應せざれば倘ほまた少廝の居るに羞ぢしと思ふものから小廝を立たしめ房の戸堅く閉切て瑞虹の身の邊りに近つきこの酒ハ已に寒たらん熱き酒をば飲れよと己れ一盃飲み乾して瑞虹に遞與せしも轉た羞慚を覺えて手にも受けず心にハ幼時父母ハいたくも此身を愛されて蝶よ花よと育られしも今ハ流落てこのありさま身體ハ已に幾回か人に汚されて不倶戴天の仇ハいまだに報ひもさらずまたもや強逼に遇ふて這のやうなる醜態をなし人を騙すハ祖宗まで辱しむると謂ふべきものと腸もはと〳〵断るばかり覺えず涙簌々と墮すを朱源ハ早くも見て取り聲を低めて云へるやう小娘子你と我と千里相逢ふ天緣の程尋常ならぬに何の不足ありて恁般に愁悶むぞと背を撫つゝ討ぬれど啞と同しく應せず益す泣くのみにありければまたもや懇に討ねるやう細に小娘子の意を察するに必ず已むを得ざるの事あるべし隱さず告けよ我力にならんと云へど口說どくちなしの花の雨中に咲けるが如く色のみまさるばかりなれば朱源ハ己れのみ十分に醉を尽し夜もいたく深たれば床に就んと勸むれどまたこれ應ぬに強てハ勸めず文机の上にありける一冊の書を挑出して之を覽せしむるなど相慇むるに頗る殷勤なる處より今ハ瑞虹も能く其爲人なりを知り早く此盛德君子に遇ふとあらばもはや仇を報ひ恥を雪きたらんものをと尋思決めて一伍一什を告知すれば朱源もいとゞ憐に思ひ扶けて仇を報んとこそ誓けれされバこれより互の交情も淺らず打とけて魚の如く水の似くやゝ半年も立ければ瑞虹ハ朱源の胤を胎し月滿て玉をも欺く男子を擧け朱源も六十五名中の一人として進士の試驗に及第し武昌縣の知事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と迄なりたれば瑞虹も仇を報るの期來れりと欣びしも年を經たるとゝしあれば仇の死せんことを懸念して朱源に迫るに朱源も亦成るべく早く仇を殺して伱の父母に手向んと云ひつゝ先つ人を差して楊州なる家小を迎へしめ已れは吏部の憑を受取京師を出發せんとせるに原來呉楚の地に官たる者は臨清の張家灣より船にて任所に赴くと多く況て朱源は家小を召連たるとなれば一隻の清潔なる船を借るよ船頭は名刺を出して其行李等を受取りいと丁寧に欵待せり然るに瑞虹は其船頭が淮安地方の音聲なるによりて忽ちこれ仇にてやあらんと朱源に其姓名を問へば名刺には呉金と記しあり定めて他のものならんと云ひけれども其聲を聞けば聞くほど忘れもやらぬ仇陳小四の聲に能く似て像もまた同しければ詰問んと思ひたれども斯ゝると容易に問ふべくもあらず其隙を窺ひ居たるに一日船頭の婆娘傍に來りて瑞虹等に茶を薦めけるより瑞虹熟ら其人を見れば十分の顔色はなけれどもまた一段の風流ある女なれば心に一物其年を問ふに二十九歳と答へたり其より何れの生れかと問へは池陽のものと答へ伱の丈夫は池陽の人のやうよおらすと云へはこれ後丈にして武昌のものなりと答ふるを聞き朱源に斯くと告て仇よ相違なしと云へば朱源も开は必ず然るべけれど急ては事を仕損ずる例もあれば忍耐して武昌に到着の後を待よとこれを制し置しに船楊州に到る頃船頭岸邊におりし二人の漢と喧嘩を始め上陸して摑み合たり朱源何故おて喧嘩するぞと問へは皆々最初資を合せて船乘を業となせしにこの船頭が一の女に迷ふて生意の道を失はしめし故开を遺恨にして今日叩き合たり私共は沈鐵彪秦小圓と云ふものなりとの事に彌よ其仇たるを明かにし到着の上全三人を白洲に呼出しそれより拷問を始め全く白狀させて後遂に悉く斬罪にぞ行ひける瑞虹の悦び凡そ如何ぞや數年の間辛酸艱苦を嘗め盡し今日始めて倶に天を戴かざるの仇を報ゆ其孝節もまた非常と謂ふべしされども瑞虹は初めより人の爲すべからざることをなし仇を報るまでと其命を限りありしかば直に一封の遺書を認め剪刀をもて喉を貫ぬきあはれ果敢なくなりにけり朱源も豈に惜まざらんや病をつくまでに歎き悲み此の顛末を上奏せしかば特に聖旨ありて節孝坊と云へるを建られ其の節孝を旌表されしと面白からぬ小説も頗に載たる武昌の縣の奇女子に聊か因みあり且つは實事に之れあるまゝ長々しくも號を重ねて花あき筆をふるひ侍りぬ看客嘸な厭ひ玉ひつらんおなかしこ

（畢）

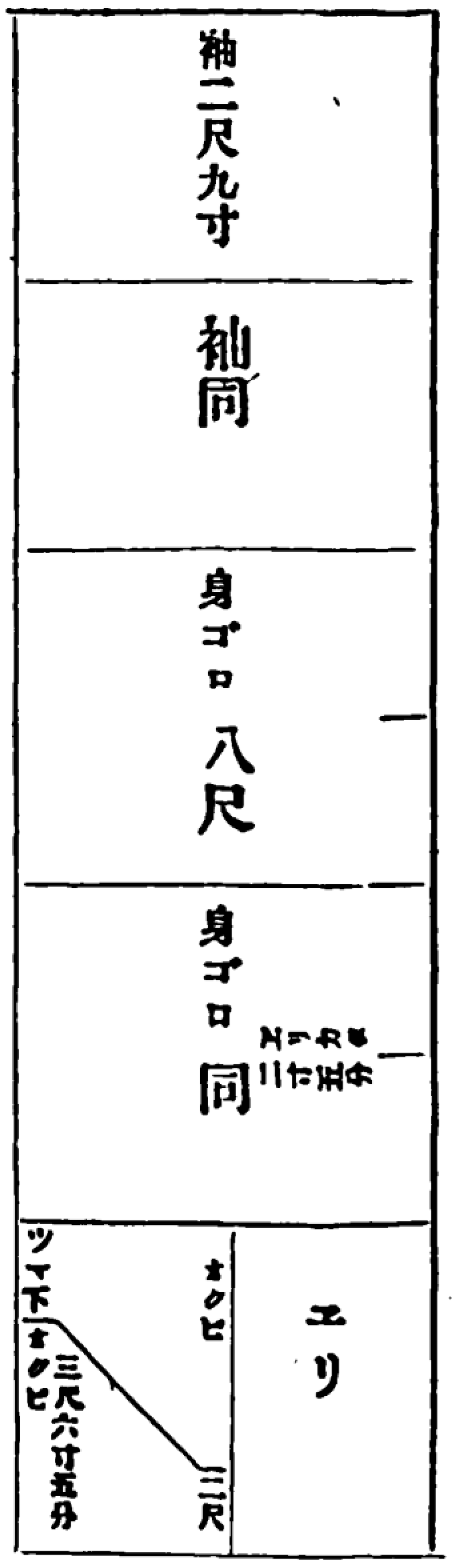
Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎女紅

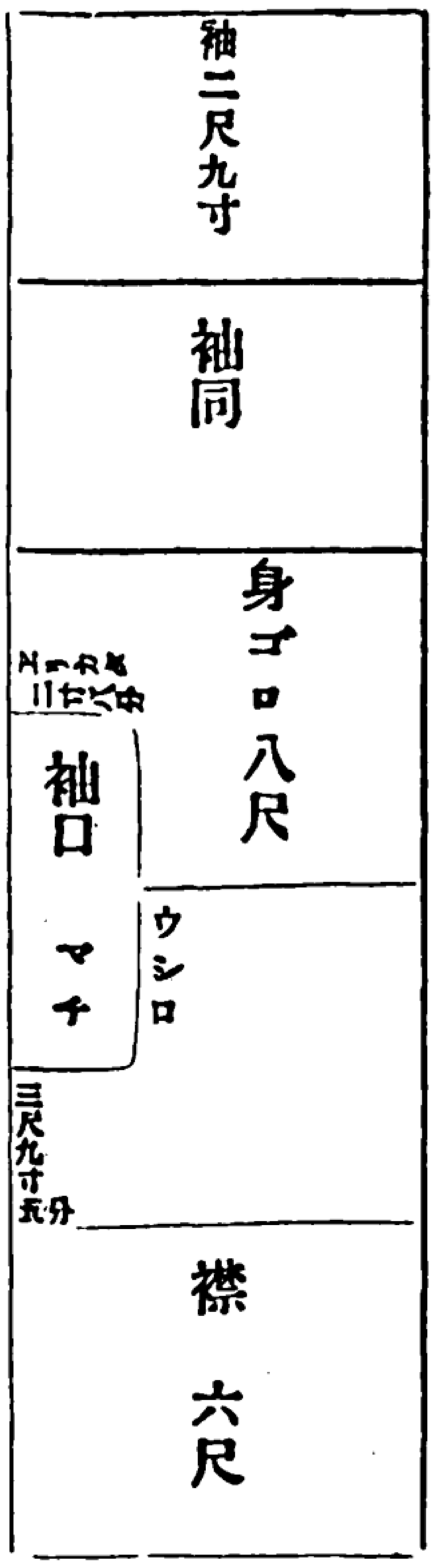
○裁縫七ツ身羽織仕立揚の寸法并一反本裁方

七ツ身羽織仕立揚の寸法ハ丈一尺八寸五分身のあき八寸身巾七寸袖附六寸前巾四寸九分襠巾上五分下一寸八分袖丈一尺四寸ち下八寸袖口六寸前下一寸袖巾七寸五分襟巾一寸八分なり

○本裁一反の裁方は長二丈八尺巾九寸五分にて丈四尺袖一尺四寸五分なり圖ハ左の如し但し衽を裁にハ後の丈より三寸五分下り又裄下を二尺程増しこれを違に裁つへし



又折返男羽織二丈八尺ものゝ裁方ハ巾九寸五分にて丈二尺五寸袖一尺四寸五分襟六尺圖左の如し



○エッグ、フリップの製法

エッグ、フリップと云へるハ西洋の卵子酒にて卵子三つと最上の白砂糖三十目ばかりを混和し之を熱く煖めたる四合ばかりの麥酒に漸々まぜて鍋より一二度他の器に移せハ風味よき卵子酒となるなり

○即座に葛饅頭を製る法

葛粉をよく粉にして盆の上にふるひ置き餡を丸くして其上へ轉し衣にして蒸籠に入蒸すべし葛饅頭となるなり

○足の底を奇麗に洗流す法

足の底ハ脂多くして惡臭あり且つハ襪など汚れやすけれハよく常に洗落すべきものあり然れとも浮石抔にてハ容易に奇麗ならずこれハ少量の格魯兒石灰をもて洗へハ忽ち落るとなり

○髮の毛の拔けざる法

秋の頃またハ病後等にも髮の毛の拔けざるやうにするにハ桑白皮四十目を水にてせんじ其かすをさりて洗へば禿げそまた禿げたるも自然に生ると妙なり

○染めたる齒を白齒にする法

齒を染めるハ我國古來の習慣なるが文明の今日廣く泰西人とも交際をなすに當り齒を染めたるハいかにも見苦しく彼より

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の識りも如何なれば早く白歯にするこそ宜しかるべしされど歳月の久き染め來りたるとなれば一朝之を白くせんハ中々六ツケ敷わざにて鐵醤も染み込み居ればせんかたなく遂に依然染め置く人多しこれらの人ハ笹の葉を焼き黒くして灰とならざるものを指の腹につけて磨くときハ忽ちに鐵醤落て真白きと雪の如くよなれば先づ疑ハずして試み給へ

◎御伽草

〇庸醫

神田邊に山井庸仙老と云へる一漢方醫者あり其術ハ極めてヘボなりと雖も傷寒論を鵜呑にし千金方を丸嚙よし耆婆扁鵲も何のそのと云ハんバかりよ氣位を高くし人を盛殺すとを何とも思ハぬ先生なれバ常に人に對しても以と横風にして少し無禮がましきとにても働くものあればハッタと怒りて手打にでもなさんず勢ひあり此の程も或る處にて横町よりの川會頭に一人の人力車夫が先生に衝當り絽の羽織を車輪にて汚せしとて例の立腹まぎれに低頭平身して謝するをも肯入ず全体ならば手打にする處なれども當時帯刀の禁あれば足にてしたゝかに踏にじり以後を慎むべしと云棄立去んとせしかば車夫ハ頻りに難有と拜みたるに傍に佇待したる車夫が之を見てナンダ馬鹿々々しい踏れて拜むものがあるものかと笑ひたれば此車夫ハ否とよ足で踏れたのらして却て拜むのぢや若し那麼醫の手までもかゝりたらば所詮生命ハ無きところであつた

評今也醫術大進歩又無有如斯庸醫而間有之可嘆哉

〇考へもの　藤田治子

爰に三字名の一樹あり上の一字を取れハ物の疊りたる跡の名となり中の一字を取れハ水のある處となり下の一字を取れば樹木の名となり逆よ讀めば病の名となり下の一字を除き逆に讀めハ獸の名となり中の一字を除き逆に讀めハ死後の居處となり上の一字を除き逆に讀めハ食具となる知らず何樹なるぞ

〇第廿三號西洋隱語謎解當者左の如し(西洋隱語電線)京橋堺美代姐築地溝口久姐靜岡弓削濱姐(謎暮から飾りまり)弓削濱姐横須賀鈴木藤姐堺美代姐芝吉村玉姐(廿一號謎考物)信州松本のたハ稻姐(廿一號考物カモシ)熊本守部康姐

◎古今雜話

〇箏

箏もむかしハ義爪なしに彈せし事にや夜鶴庭訓よ齋宮女御箏を彈給ふに右のゆ手の爪をたしなみ玉ひ常にハ左のゆ手勝に彈せ玉ふ故に後にハゆ癖になりし又大鏡よ芹川行幸箏を彈く人ハ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

別に爪作りて指にさし入れてひく事にて侍りと云々是等のことにても思ひ合すへし

○西洋女禮式一斑　（前號の續）

また人より紹介狀と名刺とを贈りたるときはその翌日その人を訪ふのみならずその翌々日も引續きその人を訪ふべしその最も正しき取扱ひをなさんと欲するときはその人を招待して正餐を饗すべし若しこれをなすこと能はざる場合には觀せもの或はバザー（有志の出品會）または時々の音樂會などの內その人の爲めに相應はしき見物の場所に伴ひ行くべし人の紹介により始めて人に遇ひたる時は可成その人に心切を盡すべしと云ふに外ならずこれ禮法の旨趣なり

若し右に述べたるごとく紹介を受けたる人を招待して正餐を供するときは他の一兩人を陪食せしめんことを問ひその人々を紹介して共に饗宴に伴ふべし唯二人さし向ひの饗宴よりも一層丁寧なる饗應にして且つその人に他の知人を得せしむる利益ありて紹介をなしたる人に對しても丁寧なる儀を表するに當るなり

右のごとく陪食者を紹介するときは正客と同等の人のみを選ぶことに注意すべし

人の紹介狀を與ふるときは開らき封にして渡すべしこれを持參する人のその書中に書きたる事を讀むが爲めのみならず自から信用を證するが爲めなり而して先方へ持せ遣す時は固封すべしと依賴しをくときは言はずして書中を見るべしと云ふに當るなり

紹介狀に用ゆる紙は可成上等品を用ゆべし

右のごとく禮儀を正しくして人を尊敬するは自ら人に尊敬せらるゝの基なりと知るべし少しのことにても決て等閑になすべからず最初は誠に面倒なるがごとしと雖も後ちには習慣性となりて自ら煩はしとも思はざるに至るものなりかく習慣性となりたる人を教養のよき人なりとはいへりこれ瑣細なることなりと雖も社會に交はるに當り甚だ必要なることにて禮式上の心得ある人を貴人紳士といひこれなき人をば下等社會の人なりと云ふ

（以下次號）

○踏舞會の心得　（前號の續）

踏舞會あるひと夜會を催はすときと食事のことも甚だ必要なる箇條なり若し費用に拘らざるなれば近傍にて上等の料理屋に注文をなしをき食事のときに至り來客一同をその料理屋に送ること最も都合よし然るときハ別に饗應掛りのものおよ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

び使丁を要せずみな料理屋に於て引受くるがゆゑに万事催主たるもの〻心配なかるべし然れども時の事情によりか〻ることとて不都合なりとせば簡易なる手料理にてよき食品を撰び澤山に出すべし踏舞者は常に空腹を感ずるものなるがゆゑに品數よりも澤山なる方を喜ぶべし是までの經驗によりサンドウイッチ等の不足して不都合なりしこと度々ありまた踏舞會夜會等解散のとき馬車の不足することの能くあることなれば必ず前以てその用意をなしおくべし婦人は勿論男子にても踏舞者は歩行する用意なきもの多く且つ自分の妻女あるひは令孃の為めに馬車を求むることあるものなりか〻る時は如何よ取り込むとも女の召使ひをば決て出すべからず男子の召使にても馬車を呼び集むること出來難きものなれば前以て巡査を一人雇ひおき(但し手燈を持たしむべし)解散の少し前に近傍の馬車溜り場より呼び集めしむべし　（畢）

○日本女禮のあらまし

起居進退の部つゞき

〔一同の禮〕幾人にても一同に出て拜するには初め出る者は靜にあとに續き出るものはそこしく疾く幾人にても遲速なく列座の席に歩み出て上座に當る膝より跪つき其上座の膝より二膝ひきて拜するなり起つ時は下座に當る膝より三膝ひきて下座の方へ少しひねり下座の者より立つべし

〔貴人を拜する禮〕膝の兩脇に指先を向ふにして兩手を突き起つ時は兩手を膝の上に置き兩足を爪立て膝を右の方よ（我か右の方なり已下左右と云へるも之よ同し）斜めにひねりて起ち上り面前三四尺の程に目を属け頸を眞直にして左右を顧みす身体反す屈らす腰を据へ肩をなだらかにし腹を張りて臂を張らす手は指先を下へ少しく内へ兩脇の帯の邊に置くなり裲襠しある時は襟の上を押へ左足より小股に早からす遲からす踵を下につけて蹶かぬ樣すらり／＼と歩み出るべし巳に拜禮すへき所に至れは左足を稍ひきて左の膝より跪き若し又右方を敬禮すべき時には右足を引きて右膝より跪き兩手を膝の前に突き先つ右手と右膝とを一同に引き次に左の手膝も右の如くにして引合せ兩手の一二の指を合する程にして膝口のあかぬ樣に兩肘を膝の側よつけ兩足を整へ徐かに平伏すへし兩手の上に面部の至る程を至極の敬禮とはなすなり而して起つ時は右左右と三度手膝を一同に引て聊か右の方にひねり起つへし若し左の方に敬ふへき人あるか但しは左を上座とする處の座敷ならば左の手膝より三度引きて左に向ひ起つべし

（以下次出）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎群芳詞苑

○花下忘歸　西京　藤田まつ子

春風にうきをちらして歸るさもわすれて花にうとふなりけり

○窓前蓮池（田居小景記第四）河内　鐵心居士

盆池經二尺許。貯水栽蓮。盛夏之際。紅白破蕾香泛々。文魚出沒游泳其中。亦足以賞心而娛目。

○閨秀新品

○落花　備后　藤井恩美子

隙を行く駒のあゆきもいとはやくきのふの花も散失せにけり

己か身の老ぬるそとはおもほえすちりゆく花の惜まるゝかな

○同し題　濱松　木下　節子

咲ころのうれしかりしもうらうへにつらきは花の嵐なりけり

○つゝし　東京　貞　子

桃櫻青葉にかはれるにはのおもにいろめつらしく咲つゝしかな

紅葉の色よりふかくさき出てつま木にもるゝいはつゝしかな

○夕春雨　同し人

長閑なる月の光りもおほはれてゆふへさひしき春さめのそら

○蓮華草　藤井惠美子

野にあれば心ひかるゝ蓮華草

蓮華草ならびてさくや佛の座

○花下步月　木下小桃女史

淸光素影乱紛々。月色花容看不分。身訝脫然化仙媛。縞裙玉履踏香雲。

○第廿二號數學答式　熊本　守部　康子

$$5 : 11 = 300 : x$$

$$x = \frac{11 \times 300}{5} = 660$$

乙錘六百六十目

○新題

和歌（待郭公）　俳句（女生徒）

詩（綠陰）五七言律隨意　文（祝新婚文）和漢文隨意片假名交り三百字を限

數學題

男十六人女四十八人にて十二日間の業あり今男十八人女廿人をして其業を執しめんとせば幾日にして成業すべきや

○正誤　第廿二號本欄內和歌里卯花題中峯の卯の花とあるは岸の卯の花又第廿四號女紅欄內燻眼製法は燻腿製法の誤なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

岩神正矣君編輯「ワシントン」「グランド」二氏石版肖像入
米國前大統領 **虞蘭將軍全傳** 平假名附前同斷 洋綴美製全一冊 定價卅五錢
○世間其形小にして貴重なる者あり寶玉是れ也此書小冊子と雖ども將軍が一生の經歷功業を羅述して簡にして要を得たり故に一たび出板して忽ち初板數千部を賣盡し未だ二月ならずして **再版** の榮を得たり凡そ將軍が幼時、出身、浮沈、南北戰爭の紀事軍略、大統領の當撰、政略、失策、世界漫遊、將軍家の落魄並遠逝葬式に至るまで將軍が自著中より抄出せる上に他の近代史と參考して輯錄せる者なれば將軍の一代を知らんと欲せば之に加る寶玉なかるべし尙ほ初版に倍して愛顧を乞ふ

西森武城君編輯
● 生徒必携 **作文獨稽古** 鼇頭いろは分字類 和製中本全一冊 定價貳拾貳錢

七條峰太郎君編輯
● 女子必携 **女子作文楷梯** 鼇頭作文要用字類 和製中本全一冊 定價貳拾貳錢
從前小學校の生徒に文を敎ゆる男女一樣なるが爲め女子の爲めに不都合多きは敎育家の常に患ふる所也然れ共女子作文を敎ゆる好書なきが爲めに只た患ふるのミにて之を濟ふ能はず今此書は專ら女生徒の爲に婉曲にして通ず易き作文を敎へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲めに編著せるものにて作文獨稽古と共に小學敎員及び生徒諸君の錦囊たる書なり

堀内正路著 細圖入白紙摺美本
○千家正流 **茶の湯客の心得再版** 全一冊 舊定價四拾錢 改正廉價金卅五錢
此書は千家直傳の免許を受たる堀内大人の新著にして先きに出版致候處江湖の喝采を博し今般 **再版** 仕廉價を以て發賣致しよ幸いに數千部を賣り盡し候へば苟も茶道を好む諸君は一本を備へて千家の奧意を學ぶの捷徑に供し給ふべし

發兌 九春堂
賣捌 文春舍

○忠經旁釋 漢馬融撰 日本佐藤楔先生旁釋 木板手刷 正價拾錢 郵税四錢

○明治英名傳 正價金三十錢 郵税共

○人命保險 人間長壽法 正價郵税共三十錢

○清國漫遊誌 正價金四十五錢 郵税自便

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
發行所 積文舍
持主兼編輯人 松本義弘
印刷人 初鹿野銻五郎

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地 同 東海堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新肴町 長明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高梘堂
同 蠣売町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂岡田
同 同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍
山梨縣甲府常盤町 内藤傳右工門
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房
神奈川縣下横須賀旭町 大塚靜喜

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY